

# 三井住友ファイナンス&リース



三井住友ファイナンス&リース  
代表取締役社長  
川村 嘉則

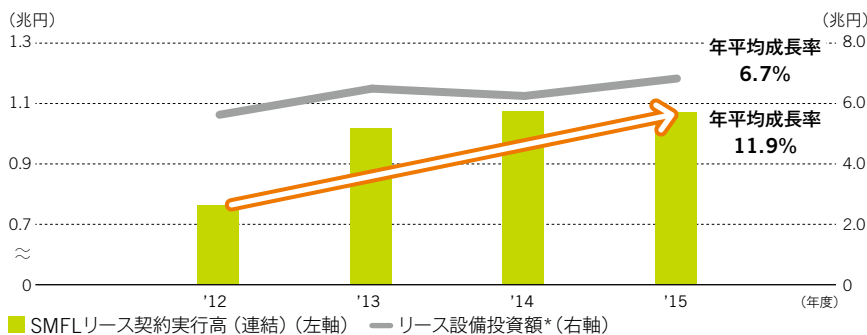
## 2015年度実績

三井住友ファイナンス&リース(SMFL)の2015年度の契約実行高は1兆9,948億円、連結営業資産残高は4兆1,926億円となりました。また、連結粗利益は前年度比58億円増の1,428億円、連結業務純益は前年度比1億円増の807億円となりました。国内では、底堅い設備投資需要を受けて、賃貸・延払事業が堅調に推移する一方、海外では、航空機リース事業が伸長しました。また、ドイツの販売金融会社を子会社化し、販売金融ビジネスの多様化を図りました。

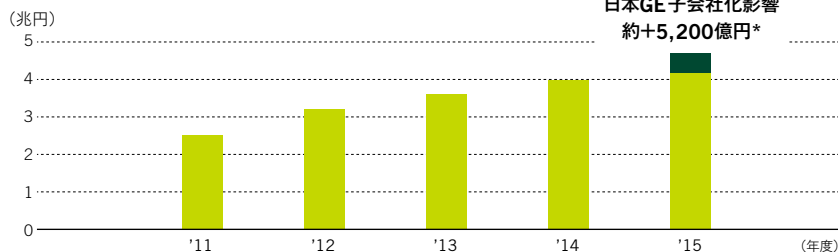
## 事業環境と今後の戦略

先行きの事業環境は、国内経済の回復に力強さが欠けることや海外経済の減速懸念が続くこと等から、不透明感が強まっています。このようななか、SMFLは、2016年4月1日付で、米国・General Electricグループから日本におけるリース事業を買収しました。今後、互いのノウハウやリソースを活用することでシナジーを発揮し、国内のリース業界トップ企業としてのポジションを盤石なものとしていきます。また、水素関連や農業関連のビジネス等成長分野に取り組んでいくとともに、海外を中心にリスク管理を強化していきます。航空機リース事業では、SMFG、住友商事グループとの連携により、国内外の航空会社や投資家のニーズに対し、様々なソリューションを提供していきます。

### リース設備投資額\*とSMFLリース契約実行高(連結)



### SMFL 営業資産残高

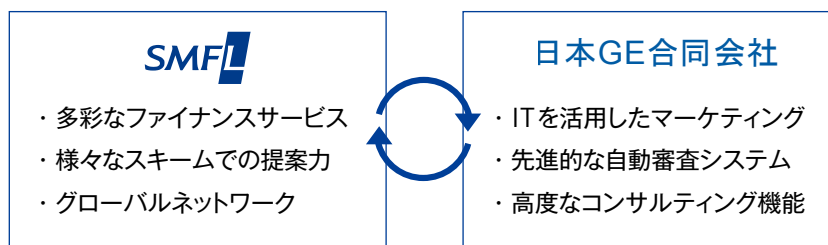


\* 2016年3月末SMFL連結営業資産残高実績に4月1日付で子会社化した日本GEの営業資産を加算

## ▶ 日本GEとの協働でシナジーを発揮

SMFLと日本GEが持つ強み・ノウハウを相互に活かし、より多くのお客さまに、新たな価値を提供することにより、シナジーを発揮していきます。

注：日本GE合同会社は、2016年9月5日付にて、「SMFLキャピタル株式会社」に商号を変更する予定です。



## ▶ 成長分野への取組

SMFLでは、水素関連ビジネスの展開を進めており、日本で最初に、移動式水素ステーションのリースに取り組んだほか、スマート水素ステーションのリースにも取り組みました。

また、農業の6次産業化、大規模化、先端農業化をサポートするために、新たに農業経営者向けリースプログラム「アグリアシストプログラム」を創設する等、成長分野への取組を推進しています。



水素関連ビジネスへの取組



農業経営者向けリースプログラム創設

## ▶ 航空機リース事業への取組

航空機リース事業において、SMBC Aviation Capital (SMBC AC) は、保有・管理航空機体数で世界第3位の規模を有しています。

SMFL、SMBC AC、三井住友銀行の3社は、SMFGの総合力を活かして、国内外の航空会社や投資家の多様なニーズに応じていきます。

